2012. 07

ヨシでびわ湖を守る ネットワーク通信

VOL. 13

外来魚釣り大会の開催場所
能登川水車とカヌーランド風景

ネットワーク通信vol.13は
特集「ニホンジカによる森林植生の変化」とネットワークで参加した外来魚釣り大会の様子をご紹介します。

びわ湖を知る■問題

外来魚のとしてよく知られている
ブルーギルの原産地はどこでしょうか。

① オーストラリア　② 中国
③ カナダ　④ アメリカ

特集
1ページ

滋賀県立琵琶湖博物館／滋賀県森林センター
寺尾 尚純　様より

ニホンジカの増加と森林植生の変化、その先にあるもの

【ニホンジカとは】

ニホンジカは、和名に「ニホン」とついていますが日本固有種ではなく、ベトナムから中国東部、台湾、沿海州に分布しています。日本においては、エゾジカ、ホンシュウジカ、キュウシュウジカ、マゲシカ、ヤクシカ、ケラマシカ、ツシマシカの7つの亜種がいて、滋賀ではホンシュウジカが生息しています。

世界中には40種ほどの仲間がいますが、高緯度に生息している仲間は大型で草原を好み、低緯度に生息している仲間は小型で森林を好む傾向があり、環境・サイズ・好む生息域には相関性があるようです。ニホンジカは、シカの仲間では中型に属し、森林と草原の中間つまり森と野が混在する場所に好んで生息し、ほとんどの植物を餌にすることが出来ます。

滋賀県での生息域は、農地と山が隣接している農山村地域、中山間地域、奥山などでニホンジカが繁殖しやすい区域が広がっています。

ニホンジカの親子
写真提供：㈱野生生物保護管理事務所関西分室

【増えるニホンジカ、森林へのダメージ】

近年ニホンジカをはじめイノシシ、サルなどによる獣害が農林業に重くのしかかってきています。それらは、これらの個体数が増加したことが一因と考えられます。

栄養状態の良いニホンジカの雌は、2歳で初産し、ほとんど1回1頭ですが10歳～15歳まで毎年繁殖をします。

ニホンジカの生息数は、繁殖率と生存率の関係により増減が生じるのですが、地球温暖化に伴う降雪量の減少、耕作放棄地、大規模造林や草地開発によるシカの繁殖に適した場所の拡大、中山間地からの人活動の撤退、ハンターの高齢化や減少による狩猟圧の逓減など、生息数が増加する要因が増えています。

ニホンジカによる採食圧は、農林業被害だけでなく森林生態系にも影響を及ぼしています。剥皮による樹木の枯損、林床植物の消滅、ササ原の退行、幼樹の更新阻害、希少種の減少、嗜好性の低い植物のみの残存。地形条件と相まった土壌の流出、地形の改変など森林の存在そのものにも大きなダメージが生じ始めています。これらは、ニホンジカの著しい増加により引き起こされた現象であり、今後、より詳細な調査が必要とされています。

食害により下草が生えていない
【林床植生がほぼ全滅状態】

林床に嗜好性の低い植物のみが残り、シカの届く2m以下の樹木の葉が無いディアラインができている状況

特集
2ページ

高島市朽木能家の剥皮被害状況

多賀町霊仙山山頂付近
【以前はササ原が広がっていた】

【適正な保護管理が必要】

著しく増加（又は減少）している野生鳥獣に対して、長期的な観点から保護管理していくために、特定鳥獣保護管理計画制度があります。これは、都道府県が個体数の増加（又は減少）が著しい野生鳥獣に対して、個体数調整と生息地管理を科学的・計画的に進めるもので、シカの場合は、個体数を一定のレベル以下で維持しながら被害をあるレベル以下に管理していく取組みとなります。

滋賀県でも、ニホンジカ特定鳥獣保護管理計画（第2次計画期間2012年4月1日～2017年3月31日）が策定され、取り組みを進めているところです。その中で、ニホンジカの推定生息数が調査され、2010年度では、47，000頭～67，000頭となりました。これは、2004年度の推定生息数と比べるとこの6年間で倍増したことになります。一方、森林生態系の影響を及ぼさないとされている生息密度は3～5頭／km2とされており、その中間値の4頭／km2を滋賀県に当てはめた場合8，000頭となっており、明らかにオーバーユーズとなっています。

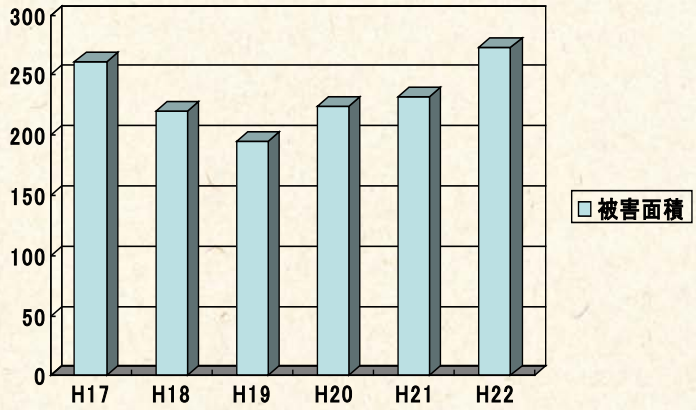
【賢明な地産地消】

その保護管理計画では、2017年度に2012年度生息数から半減させることとなっており、年間11，000頭～16，000頭の捕獲が計画されています。ただ、捕獲して数を減らし、適正数を維持するのではなく、資源として有効利用することが適正化へのカギとなるのではないでしょうか。

中山間部では、鳥獣被害により耕作放棄に拍車がかかり、人社会が撤退し野生動物の生息域が広がっていく悪循環が起こりつつあります。

これらの負の連鎖を断ち切るためには、農林業への対立物というとらえ方（駆除すべきもの）から、適正に生息数を管理しながら利用する、資源としての関わり方（有益な資源利用）に変えていくことが求められていると思います。

滋賀県のニホンジカによる森林被害面積（(実損）［ha］



滋賀県内でも、食用に適した仕留め方と解体法の普及により、本来持っているシカ肉の良さが理解され、地元産ニホンジカの消費が少しずつ進んでいます。これからも、賢明な地産地消が進むことに期待しています。

伊庭内湖外来魚釣り大会のようす。＊＊＊

開催日
６月１０日

びわ湖の外来魚といえばブラックバスやブルーギルが代名詞。
びわ湖古来の在来種の天敵として知られています。
東近江市伊庭内湖周辺地域でこの外来魚を少しでも減らそう
と釣り大会が催されました。当日は天候にも恵まれ絶好の釣り日和。
「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」もこの大会に共感し6月１０日の日曜日、呼びかけに集まって
くれた仲間と一緒に釣り大会に参加しました。

昼過ぎ１４：００ごろまで皆さん
それぞれに梅雨の晴れ間の時間を
ゆっくりと楽しみました。

伊庭内湖外来魚釣り大会のようす。＊＊＊

ブラックバスも何匹か釣れました。

この日の水揚げ。約６８０匹、２１ｋｇの収穫。
ほとんどブルーギルばかりが釣り上げられました。

地元の皆さんが外来魚の天ぷらをふるまってくれました。

事前に調理されたブルーギルの切り身。

もろこのてんぷら。
伊庭内湖周辺では最近大量に取れるそうです。（びわ湖の貴重な高級魚です。）

これはブルーギルのてんぷら。
臭みもなく淡泊な白身魚でした。

****

　地元の皆さんと一緒に釣りを通してびわ湖の生態系を守って行く活動に参加させいて頂きました。天候にも恵まれ家族で楽しまれる方が多く、ゆったりとした時間が流れていました。
周りを見渡せば2mほどに成長したヨシ原が広がり、初夏の季節を感じさせる外来魚釣り大会を楽しみました。

****

*** 参加いただいたネットワークのみなさま ***
ダイフク様・ノエビア様・TCM様・スミ利様
旭化成住工様・日本電産様・たねや様・ふじよし様
総勢60名ほど

びわ湖を知る■解答

④ アメリカ

ブルーギルは日本では大きくても25cmぐらいですが原産地の北アメリカでは体長40cmにまで成長するそうです。